

## モロッコ政治月報（3月）

2016年6月13日  
在モロッコ大使館

3月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

### 【主な出来事】

- ◎（8日以降）西サハラ問題に関する潘基文国連事務総長の発言等に対するモロッコからの強い反発・抗議
- ◎（13－16日）モハメッド6世国王のロシア訪問
- ◎（17日）EUとの関係再開決定

### <内政・政局・治安>

#### 1 10名のISIL関連テロリストの逮捕

（1）2月18日に摘発したテロ細胞に関し、3日、内務省は、関係当局の科学鑑定の結果、エル・ジャディーダで押収された不審物に致死性の高い生物学的毒性物質が含まれていることが判明したと発表した。

（2）内務省コミュニケによれば、これらの物質は、微量で人間の神経系の麻痺・破壊を引き起こし、死に至らしめることが可能であるため、国際的な関係機関からは、危険な生物兵器として分類されている。また、これらの毒性物質は、大気や水中に漏れた場合には環境を危険にさらすとされている。

（3）内務省コミュニケはまた、摘発されたテロ細胞の捜査によって、同者らがこの物質を製造し、国内でのテロ行為に使用する計画をもっていたことが明らかとなったことを伝えており、ISILのテロリストが今後、この新たな手段・方法を用いて、国民の間にパニックを引き起こし、国内の安定を脅かし得ることを示した。

#### 2 リビアISILと関係を有する9名からなるテロ細胞の解体

（1）24日、中央司法捜査局（BCIJ）は、リビアISILとの関係を有し、マラケシュ、スマラ（西サハラ地域。ラユーン東部）、シディ・ベヌール（エル・ジャディーダ南部）及びハド・スアレム（カサブランカ近郊）で活動していた9名からなるテロ細胞を解体したと発表した。

（2）初期捜査では、このテロ細胞のメンバーは、ISILにより世界各国で実行され

ているテロ行為と同様に、モロッコ国内における作戦執行を準備していたと見られている。このテロ細胞のメンバーはまた、戦闘技術を習得するためリビアのISILキャンプに合流することを企てていた。

### 3 独立国民連合党（RNI）による次期衆議院選挙のための内務大臣・各政党党首間の政策協議のボイコット

（１） 7日、独立国民連合党（RNI）は、10月7日に予定されている次期衆議院議員選挙準備のための内務大臣・各政党党首間の政策協議をボイコットすると決定した。

（２） これは、同党の政治家が選挙違反等で有罪判決を受けたことを踏まえ、当該判決が厳しすぎると指摘するとともに、捜査の対象となった政治家が恣意的に選別されたとの抗議を表明するために行われたとされている。

## <外交・国際関係>

### 4 モゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表のモロッコ訪問

（１） 4日、モゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表はモロッコを訪問し、メズアール外務・協力大臣と会談した。会談後の記者会見で、メズアール外務・協力大臣は、EU・モロッコ農業協定にかかる欧州裁判所の停止判決は法的に誤っており、政治的に偏向していると述べた上で、本件はすぐれて戦略的な性質を帯びていると明言し、これは単なる司法の問題ではなく、協力関係の継続にとって根本的な要素であると述べた。

（２） また、メズアール大臣は、モロッコがモゲリーニEU上級代表から提供された説明をテイクノートした旨述べつつ、集中的で透明性があり、深化した相互作用メカニズムが特定されたが、近々計画されているモロッコ外務・協力大臣付特命大臣のブリュッセル訪問の際に再度議論されるであろう旨述べた。

（３） メズアール大臣は更に、モロッコは、EU・モロッコ農業協定が引き続き効力を有し、EUがモロッコと国際的な取組を尊重し、農業協定を適用し続けるというEUからの保証をテイクノートしたと述べた上で、提供された説明及び保証は肯定的な進展を構築するものであると述べた。

（４） これに対し、モゲリーニ上級代表は、EUがEU・モロッコ間の協定は国際的にみて適法であると確信していると述べつつ、このため、同農業協定に関する2015年12月10日付欧州第1審裁判所判決に対して、欧州司法裁判所に上告したと付言した。

### 5 イスラム協力機構（OIC）第5回特別サミットにおけるモハメッド6世国王演説

（１） 7日、モハメッド6世国王演説が、ジャカルタで開催されたOIC第5回特別サミットにおいて代読された。

(2) 同国王は演説の中で、イスラエルによる占領の終結及びエルサレムを首都とするパレスチナ独立国家の設立のためのすべてのイニシアティブを歓迎するとともに、O I Cアル・コッズ委員会委員長としての活動を紹介した。

#### 6 モロッコ政府による潘基文国連事務総長発言への抗議

(1) 8日、モロッコ外務・協力省は、西サハラ問題にかかる潘基文国連事務総長発言に最も強い抗議を表明するコミュニケを発表した。

(2) 同コミュニケによれば、モロッコ政府は、サハラ地域訪問中の潘基文国連事務総長の発言の暴走、既成事実化及び不公平な自己満足の行為を指摘しつつ、当該事務総長発言に対し最も強い抗議を表明した。

(3) また、11日、衆・参両議会は、西サハラ問題にかかる潘基文国連事務総長発言を受けて特別会合を開催し、潘基文国連事務総長の発言等を強く非難した。

#### 7 スリナムによる「SADR」承認取下げ

(1) 9日、モロッコ外務・協力省は、スリナムによる「サハラ・アラブ民主共和国(SADR)」承認取下げにかかるコミュニケを発表した。

(2) 同コミュニケによれば、スリナムは1982年8月21日にいわゆる「SADR」を承認していたが、同国は9日付外務省コミュニケを通じ「SADR」承認の取下げを発表した。

(3) この機会にメズアール外務・協力大臣はニエルマラ・バドシリング・スリナム外務大臣と電話会談を行い、メズアール大臣は電話会談で、モロッコを代表して「SADR」という傀儡との外交関係の断絶を発表したスリナム政府の賢明な決定に敬意を表した。

#### 8 モハメッド6世国王によるロシア訪問

(1) 13日から16日までモハメッド6世国王はロシアを公式訪問し、15日にはプーチン大統領と会談、16日にはメドヴェージェフ首相と会談した。

(2) モハメッド6世国王の訪問中、7つの協定、5つの覚書、2つの枠組合意、1つの議定書及び1つの行動計画が署名されるとともに、14日、モハメッド6世国王の訪露を受けて開催されたモロッコ・ロシア経済会合にて、産業パートナーシップ開発を目的とするモロッコ・ロシア経済評議会が設立され、4つのパートナーシップ合意が署名された。

(3) また、モハメッド6世国王の今次訪露に伴い、15日、モロッコ・露間の「深化した戦略パートナーシップに関する宣言」が発出、両国は、2002年以降実施された戦略パートナーシップを更に高い段階に押し上げる共通の意思を確認した。

## 9 西サハラ問題に関する潘基文国連事務総長の発言等に対するデモ

(1) 13日、首都ラバトにおいて、潘基文国連事務総長の発言に抗議するためのデモが行われ、各地から約300万人が参加したと報じられている。デモ参加者はモロッコのサハラの栄光にかかるスローガンを掲げ、国家の領土一体性にかかる国家的コンセンサスを表明した。

(2) また、15日、西サハラ地域主要都市ラユーンにおいて、潘基文国連事務総長の発言に抗議するためにMINURSO本部前で18万人以上が参加するデモ行進が行われた。このデモはサハラ系住民の部族長、地元名士、地元政治家、政治団体、労働組合のイニシアティブによって行われたとされる。

## 10 潘基文国連事務総長とメズアール外務・協力大臣との会談

(1) 14日、NYにおいてメズアール外務・協力大臣が潘基文国連事務総長と会談した。会談で、メズアール外務・協力大臣は、国連事務総長が北アフリカ歴訪中に行った受け入れられない宣言及び許しがたい背理行為にかかるモロッコ政府の正式な抗議を詳細に記した書簡を手交した。

(2) メズアール大臣はまた会談の中で、アルジェリアを訪問した際の西サハラ問題に関する同事務総長の許しがたい発言および非難すべき行為は、モロッコ王国及び同国民により断固として破棄され、完全に拒否されると述べた。

(3) また、国連事務総長による発言等の結果として、モロッコは、MINURSO文民要員の大幅な人員削減、MINURSO運営のためのモロッコからの任意拠出金支払いの停止等の措置の決定を伝達した。

## 11 EUとの関係再開決定

(1) 17日、定例閣議において、ベンキラン首相は、モロッコ政府がEUとの関係再開を決定したと発表した。

(2) エル・アザミ・エル・イドリッシ経済・財政大臣付予算担当特命大臣は閣議後の記者会見でコミュニケを読み上げ、この決定はモゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表のモロッコ訪問に続く好意的な進展に鑑み行われたと述べた。

## 12 第23回クランス・モンタナ・フォーラムの開催

(1) 17日から23日まで、西サハラ地域主要都市ダフラにおいてスイスのNGOクランス・モンタナ・フォーラム主催の国際フォーラムが開催され、アフリカ及び南南協力をテーマに議論が行われた。

(2) 報道によれば、約131か国及び27の地域・国際機関から約850名の出席があり、イヴァニッチ・ボスニア・ヘルツェゴビナ大統領評議会前議長、アルワイジュリ・イスラム教育科学文化機構(ISESCO)事務局長、クラウス・チェコ元大統領など

が参加し、モロッコからはハッサド内務大臣、ルアルディ保健大臣、ベルモフタール国民教育・職業訓練大臣らが参加した。

### 13 モハメッド6世国王のチェコ訪問

(1) 21日、モハメッド6世国王はミロシュ・ゼマン・チェコ大統領と会談を行った。この会談はモハメッド6世国王のチェコ実務訪問の枠組みで実施され、モハメッド6世国王の中東欧諸国への開放政策の意思の表れとして捉えられている。

(2) 首脳会談では二国間関係が協議され、とりわけ経済及び文化の分野における具体的な協力関係の深化の方法が議論された。チェコはモロッコを「25の優先的関心国」として分類しており、同国は2013年、カサブランカにおける商業代表事務所を設置していた。

### 14 モロッコによるMINURSOダフラ・リエゾン事務所の閉鎖要請

(1) 21日、ハク国連副報道官は、MINURSOがモロッコ政府から、西サハラ地域主要都市ダフラにおける軍事リエゾン事務所の閉鎖要請を受領したと述べた。

(2) 20日、モロッコ政府は既にMINURSOの国際文民要員の大部分を退去させていた。国連副報道官によれば、退去した職員はラス・パルマスに滞在しているか、出身国で休暇を取得している。

### 15 モハメッド6世国王とケリー米国国務長官との電話会談

(1) 23日、モハメッド6世国王はケリー米国国務長官と電話会談を行い、西サハラ問題について協議した。

(2) ケリー国務長官は電話会談でモハメッド6世国王に対し、米国の立場は変わらず、2013年11月にモハメッド6世国王とオバマ大統領が共同で決定した枠内にあると述べた。

### 16 外務・協力省とモロッコ政党及び労働組合との協議

(1) 24日、メズアール外務・協力大臣及びハッサド内務大臣は、ブリタ特命大臣及びブーアイダ特命大臣とともに、国連事務総長の最近の暴走にかかる国家的問題の進展に関し、モロッコ政党及び労働組合代表と協議会合を開催した。

(2) メズアール外務・協力大臣はまず、MINURSOの政治要員を中心とした文民構成員の退去にかかるモロッコの決定は、国連事務総長のティンドゥフ及びアルジェ訪問中に行われた同事務総長の暴走の重大性に責任があり、かつ、その重大性に釣り合いの取れたものであると再度述べた。

(3) メズアール大臣は、MINURSOに与えられたマンデートの枠組みの中で、モロッコがMINURSO軍事要員との協力に引き続き従事していることを明言した。

(4) メズアール大臣はまた、モロッコは複数の機会に、MINURSO軍事要員が良好な状況でそのマンデートを果たすことができるよう十分な兵站支援を提供する用意があると表明したと付言した。

#### 17 西サハラ問題に関するモロッコ外務・協力省報道官発言

(1) 29日、モロッコ外務・協力省報道官は、モロッコと国連事務総長の危機にかかる最近の進展に関しメディア各社からの質問に答える形で、「国連事務総長報道官が主張することと異なり、事務総長の容認できない発言及び行為により引き起こされた状況は単なる誤解に減ぜられない。これは実際、前例のない重大な行為であり、正当化できるものでも、消し去ることのできるものでもない」と述べた。

(2) 同報道官はさらに、「モロッコには、これは、本件紛争の性質を歪曲する目的があり、その解決策について予断を下すような事前に練られた策謀であると見える。これはまさしく他の関係者の主張への完全な同調である」と強調した。同報道官は、「事務総長との意見の対立は、その重大かつ前例のない性質にかかわらず、占領という言葉の不公平かつ不当な使用の唯一の問題に減じられない。この表現の使用は、仮に一度きりかつ個人の資格であったとしても、アリバイでも弁明でもない」と述べ、これらの文言は（国連事務総長の）責任のレベルでは意味を持ち、政治的かつ法的な含意を有し、個人の立場は存在しないと述べた。

#### 18 スペインとの対テロ協力協議

(1) 29日、ハッサド内務大臣及びハムーシ国土監視総局(DGST)総局長（国家安全総局(DGSN)総局長兼任）はスペインを訪問し、ディアズ内務大臣及びマルティネス治安担当大臣とテロ・治安協力に関する会談を行った。

(2) 両国は同協議において、とりわけ対テロ及び組織犯罪撲滅の分野における両国の治安当局間協力を称賛した。対テロ分野において信頼のある一貫した情報交換及び多々のテロ細胞解体のための共同オペレーションの実施について協力を歓迎したほか、ドラッグの密売についてジブラルタル海峡を經由した小型飛行機による麻薬密輸の大幅な減少をもたらした両国警察当局間の共同措置の効率性を強調した。特にこれらの協力はタンジェ及びスペイン・アルヘシラスに設置されたモロッコ・スペイン警察協力センターを通じて行われたとされている。

(3) 同協議ではまた移民問題も議論され、両国は、治安・人道・開発の観点を統合したグローバルなアプローチを共同で促進する決意を示し、スペイン内務大臣は、法規化・移民の統合・脆弱な者の保護を始めとするモロッコ政府の新しい移民政策を歓迎した。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
3月1-2日	スイス（寿府）	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	国連人権理事会出席，ゼイド国連人権高等弁務官との会談，イバネス・スペイン外務次官との会談，ヴェドヴァ伊外務副大臣との会談，ロドリゲス・ベネズエラ外相との会談
3月2日	仏	ハッサド内務大臣，ハムーシDGST総局長	カズヌーブ仏内務大臣，カルヴァル対内安全総局（DGSI）総局長との会談
3月2-3日	スイス	タルビ・アラミ衆議院議長	ロシエ外務次官との会談，シュナイダー＝アマン大統領との会談
3月3日	チュニジア	ドライス内務大臣付特命大臣	アラブ内務大臣会合出席
3月7日	米国	ブリフ設備・運輸・ロジスティクス大臣付運輸担当特命大臣	ヒューストン市主催第2回年次北アフリカ・マグレブ年次会合出席
3月8日	仏	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	UNESCO関連会合（国際女性の日）出席
3月9日	サウジアラビア	ベンキラン首相	「北の雷」軍事訓練視察
3月9日	ポルトガル	タルビ・アラミ衆議院議長	ソウザ大統領就任式典出席
3月13-18日	ロシア	モハメッド6世国王，アハヌッシュ農業・海洋漁業大臣，ラバハ設備・運輸・ロジスティクス大臣，アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣ほか	公式訪問（プーチン大統領との会談ほか）
3月14日	英国	ベンシャマシュ参議院	デスーザ貴族院議長と

		議長	の会談
3月14日	コートジボワール	ハッサド内務大臣, ハムーシDGST総局長	テロ対策協議
3月14-17日	米国	メズアール外務・協力大臣	潘基文国連事務総長との会談ほか
3月18日	ポルトガル	アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣	サンチェス・エネルギー担当大臣との協議, 「ベルリン・エネルギー移行対話2016」出席
3月18-22日	チェコ	モハメッド6世国王	ゼマン大統領との会談ほか
3月22-25日	ハンガリー	モハメッド6世国王	私的滞在
3月24-25日	エジプト	ルディ首相付国防管理担当特命大臣	サヘル・サハラ諸国共同体 (GEN-SAD) 国防大臣会合出席
3月25-30日	オランダ	モハメッド6世国王	私的滞在
3月29日	スペイン	ハッサド内務大臣及びハムーシDGST総局長	ディアズ内務大臣, マルティネス治安担当国務大臣との会談
3月31日	中央アフリカ	タルビ・アラミ衆議院議長	トゥアデラ大統領就任式典出席
3月31日-4月1日	米国	ムーレイ・ラシッド王子, メズアール外務・協力大臣	核セキュリティ・サミット出席
3月31日	サウジアラビア	エル・ヒンマ国王顧問, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	サルマン国王表敬 (モハメッド6世国王発親書の転達)
3月31日	バーレーン	エル・ヒンマ国王顧問, ブリタ外務・協力大臣付特命大臣	ハマド国王表敬 (モハメッド6世国王発親書の転達)

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
-3月1日	ベルギー	ミッシェル首相、ヤンボン副首相兼内務大臣	ベンキラン首相との会談ほか
3月1日	国際労働機関 (ILO)	ライダー事務局長	ベンキラン首相との会談ほか
3月4日	EU	モゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表	メズアール外務・協力大臣、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣、ブリタ同大臣付特命大臣との会談
3月9日	ポーランド	ウロネッカ外務副大臣	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
3月10日	ブラジル	ヴィエイラ外務大臣	メズアール外務・協力大臣との会談
3月15日	コートジボワール	クリバリ・アフリカ統合・在外コートジボワール人担当大臣	ボスフ・在外モロッコ人コミュニティ評議会(CCME)事務局長との会談
3月29日	ニジェール	バズーム大統領府國務大臣	メズアール外務・協力大臣との会談(イスフ大統領発モハメッド6世国王宛親書の伝達)
3月31日	タンザニア	マヒガ外務大臣	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談

(了)